

## 第 2 回ラウンドアバウト検討委員会 議事概要

【日時】 平成 26 年 2 月 28 日(金) 13:30~15:30

【場所】 経済産業省別館 1F 104 会議室

### 【議事概要】

(社会実験の実施状況について)

- ・ エプロンは、小型車は踏まず、大型車は必要に応じて踏んで走行するものとする。小型車がエプロンを踏んでショートカットしないように、通過に抵抗のある形状にすべきではないか。
- ・ 通行の安全性と円滑性はトレードオフの関係にある。ラウンドアバウトを導入する目的により安全性や円滑性などの重みが変わる。

(効果・影響に関する仮説の検証について)

- ・ ラウンドアバウトは多様な交通動態に適応する機能がある。一定条件のもとでのシミュレーション結果では、流入交通量が少ないうちは信号交差点より適切な交通制御が可能と判断できる。
- ・ ラウンドアバウトの導入により、必要になる用地の増減は比較する交差点の形状(右折車線の有無等)により異なる。ラウンドアバウト導入に当たっては効果や用地の増減等を総合的に検討することが必要。

(ラウンドアバウトの計画・設計に必要な知見に関する検討)

- ・ 流入角度については、運転手の視線で車両の構造による死角を考慮して検討すべき。
- ・ 大型車交通が少ない場合は、大型車の交通の円滑性の観点だけでなく、交差点に求める機能を踏まえて環道幅員を決めることが必要。
- ・ 分離島の設置により車両流入時の円滑性や歩行者の安全性の向上が期待される。

～ 以 上 ～